

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年6月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3494600046		
法人名	社会福祉法人 神寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり苑		
所在地	広島県神石郡神石高原町福永1501-2 (電話) 0847-87-0177		
自己評価作成日	令和4年5月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3494600046-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年6月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様が健康で自己肯定しながら安心して生活できる環境を提供しています。認知症高齢者にとって脱水・便秘・腹痛・風邪など、不快な体の不調を解消していく事に努め、特に便秘等は日々の生活の改善で対応し、不安なく気分よく過ごしていただける事を願っています。長く続くコロナ過での窮屈な環境で、外出行事の減少や家族に会えない不安から、多大なストレスを抱えておられる状況がありますが、苑内行事や日頃の接し方を工夫して楽しみや笑いが途絶えない環境づくりを整えるようにしています。ご家族様には交流の時間が減少した中でも、電話や面会時に日頃の状況を報告しています。利用者様は、出来る事を発揮する事、継続する環境を増やし、やりがいのある日常を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

一人ひとりが自分らしく、笑顔でゆっくりとした生活をしてもらえるよう、利用者の特技や趣味が活かされ、出来る事、出来そうな事を職員間で話し合い、役割を持ってもらう事で意識向上に繋げている。利用者・家族の思いに傾聴、共感の気持ちを持ち、利用者・家族が求めている事に寄り添う支援をしている。コロナ禍で面会制限がある中、ガラス越しではあるがイヤホン装着し、利用者も家族の声が聞こえる事で、不安が安心に繋がって、家族との交流が頻繁になっている。職員からの意見提案や行事のアイデア等出しやすい、話しやすい環境作りがされている。

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	日々のケア・理念を常に意識して、仕事ができる様に、目のつく所へ掲示している。情報の共有のもと職員一同でその人らしさを維持した生活をして頂くための理念に沿った改善・取り組み、ケアプランにそったサービスを提供している。	理念を見識しやすい2か所に提示している。各ユニット毎に理念に沿った年間目標を立て、職員は個々に努力目標を掲げ、職員会議で検討を行う等、日々介護する上で意識が高まり、その人らしさを大切にする支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染予防の観点から保育所・小学校・地域行事の参加は減少。又、面会者及び地域住民の方々にはカラス越しで無線機を使用し面会出来る事を伝える。理容院・美容院は来苑してもらい、関係性を継続し散髪している。	面会制限の為、今まで通りの交流が困難な中で、ガラス越しの面会の際に生の声が聞こえるようにイヤホンをしての会話や保育所園児のハロウィンの衣装をしての訪問、理美容院の来苑など馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	学習の一環としての実習生を積極的に受け入れるようにしている。老人会等からの要請があれば集まりに参加して施設の概要や認知症についての勉強会を一緒に行ったり、施設見学の依頼にも気軽に応じている。又キャラバンメイトの資格を持つ職員が地域において、認知症サポーター養成講座をおこなっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設・入居者・行事状況を報告(写真掲示)し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。大きな行事には運営推進委員の方々に参加して下さるので、その場での率直な意見を得られ、次の行事に反映できるようにしている。	運営推進会議開催時は自治振興会会長、民生委員、行政代表保健課、家族代表など参加が得られ、活動報告、行事報告などしている。質疑応答には事故転倒について、災害時の対応など、意見交換の場となり、対応策の検討を行う事で、貴重な意見が活かされるよう努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町・地域包括センター等の指導、助言を得てサービスの向上に努めている。認定更新時の聞き取り時には、ご本人やご家族の要望や困っている事などを伝えて情報を共有できるようにしている。	行政代表保健課、神石支所職員が運営推進会議に出席があり、介護保険制度の詳細の説明や指導、助言を頂いている。日頃から出向くなどして情報共有を行い、関係性の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年3回は身体拘束廃止研修会を実施し「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解の徹底を図っている。身体拘束をしない対応の仕方を都度話し合い適切な支援について検討し、安全面に配慮しながら散歩に付き添い、鍵を掛けることなく自由な暮らしを支援している。	毎月、職員会議で身体拘束による弊害について研修を実施している。申し送りノートに記載し、意識統一を図り身体拘束をしないケアを実践している。「帰りたい」の利用者には否定をするのではなく、不安をなくす声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し、年1回苑内研修を実施し虐待とは何か等、法を学ぶ時間を設けている。町から勧められる研修への参加と、参加後の研修報告を行ない意見交換を行なう。管理者は職員の様子に注意を払い、必要なメンタルケア支援を行なう。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等への参加・書物での勉強等で学ぶ機会を多く持てるようにして職員個々が概要を理解できるようにしている。個々で必要となった場合には関係者との話し合いを持つようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	苑でのケアの取り組みや考え方を説明して、ご本人やご家族の意見要望を聞いて納得していただけるまで時間をかけて話を聞いている。解約事項についても細かく説明を行い、不安をなくすように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方々との日々の会話の中から要望や心情を察しサービス提供し、ご家族に日頃の状況を報告して意見をもらったり、ご家族からの要望も聞いて、職員間で話し合い改善できるようにしている。	利用者・家族の意見要望など職員間で話し合い、日頃介護をする上で改善に繋げている。下肢筋力の低下予防に玄関先の階段や廊下の手すりを使用し、踏み台の上り下り、家族から衣類の持参があれば、写真を撮って送付するなど反映している。	

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のみでの判断で済まされる事項については、会議やミーティング・日々のケアの中で意見や提案を聞き、話し合いをした上で決定して実践している。経費が必要な事項や大幅な改善が必要な場合は、代表者に報告・相談して決裁をもらう。	行事担当者が毎回変わる事で色々なアイデアや意見、提案が出しやすい関係性ができている。ベテラン、新人職員に関係なく、いつでも話しやすい環境が出来ていて、反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現在はオンライン研修等を利用し職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。職員が興味や勉強意識が強い内容の研修にも参加できるようにしている。また休憩時間の確保、時間外手当の支給をする。介護職員処遇改善加算支給について適切に支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のレベルや介護意欲に応じた外部研修を受講できるように計画を立てている。新人職員には管理者、リーダーが介護の方法、精神的ケア等指導して現場で常に助言・援助を行っている。管理者も気軽に相談できるように、適時助言を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	郡のケアマネ協議会（現神石郡ケアネットワーク）やその他の会議等で他の施設の管理者・ケアマネ等と情報交換を行い、新しい着眼点を見出しサービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談時には、笑顔での話掛けを行ない、リラックスして面談ができる雰囲気づくりに努め、会話の中から本人の本音が引き出せるよう、礼儀正しく、誠意をもって面談している。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の話したい事や困っている事をよく聴いて受容し、これからの生活について相談していく。苑での対応や出来る事を具体的に提示して両者で確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早期対応が必要な場合には担当ケアマネとの連携を取り、利用可能なサービスへつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分でできる事はしてもらおう（要見守）。又、職員と協力して家事等をする。生活の中での自分に合った仕事・手伝いを強制ではなく、すすんでできるような取組や雰囲気作りを行っている。又人生の先輩として色々な場面で教えや助言を乞う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃より生活の様子、体調について細かく伝えることにより本人とご家族との会話のきっかけ作りに努めている。感染症対策によりガラス越しでの面会だが、職員が間に入り会話の援助をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院・理容院に来苑してもらい対応し、知人・友人の来訪を快く受け入れガラス越しでの面会対応。かかりつけ医の変更は出来る限りしないで通院できるように対応している。	花見、紅葉狩りなど、以前暮らしていた住み慣れた場所への外出やかかりつけ医の通院など馴染みの場所・人との関係継続支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がそれぞれの個性を把握して個性を生かす働きかけを行い、輪が保てるように調整を行っている。みんなで楽しく話したり、利用者同士の会話が広がる様に職員も一緒に入って雑談や話を聞いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた方に対してご家族にその後の様子などを聞くようにしている。施設との連携を取り、今までの生活の流れに沿った介護を受けられるように引き継ぎを行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で要望に対応したり、個々の生活パターンを把握して時間や体調によってトイレやベッド介助等を行っている。その日の気分や体調によっても臨機応変に対応出来るようにしている。(例：食事時間・形態、入浴等の変更)	日頃の会話や表情、何気ない仕草から汲み取り、出来る事、以前していた(あいさつが上手い方には挨拶をお願いしたり、お花を生けてもらうなど)申し送りノートに記入し、情報共有して役割を持つ事で利用者の意欲に繋がる支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人家族やケアマネのみならず親戚・知人・地域住民からの情報収集を行い、職員への周知徹底により現在の状況だけにとらわれず、築いてきた事や頑張りを評価し尊厳をもって支援が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体の調子や表情を観察して、その日の過ごし方や食事時間及び形態を検討し、実行するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>少しでも自分で出来る能力があれば、その能力を発揮できるように、常にご家族や職員で話し合い介護計画に反映している。まず、参加することに意義を持たせ、少しずつでも出来るようになる喜びを共有して意欲へとつながる様に支援している。</p>	<p>利用者・家族の思いや意向、職員の提案やアイデア、関係者の意見が反映された、意欲に繋がる介護計画を作成している。定期的なモニタリングや体調変化など現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の実践・様子、食事、排泄、水分量、バイタル、来訪状況などを個別記録に記入して、職員それぞれが常に目を通し共有している。又見直しが必要であれば介護計画の修正を行なっている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>受診について遠方家族や都合のつかない家族に対しての受診送迎・付き添いを行っています。緊急時の受診も対応出来るようにしています。自宅へのドライブに外出や外泊も家族の方や苑で対応し自由にしてもらっている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>災害時や普段から地元議員・自治振興会との連携を取り、緊急時には協力してもらっている。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>それぞれのかかりつけ医に継続して受診出来る様に支援している。家族対応でも日々の体調が分かる様に記録を持参してもらい医師に情報が伝わる様にしている。受診結果は家族から細かく聞き、検査結果や注意事項は病院から苑に連絡をもらえるようにしている。現在接触を軽減する為、時間調整をして受診している。</p>	<p>殆どの利用者が利用前の診療所のかかりつけ医が主治医であり、馴染みの関係が出来ていて、利用者も気兼ねなく受診が出来る。受診時、職員が同行した際には健康状態、情報を持参し、医師に伝えている。家族には受診後の結果を詳細に不安のないよう説明している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック・体調観察を記録して変化ある時には、報告して助言・対応を受けている。体調悪化早期発見につながる変化の気づきなどのアドバイスを常時受けて実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診するかかりつけ医と緊急時に受診する病院を家族と話し合い決めて対応している。入院時にはアセスメントシートで病院に情報提供を行っている。入院中には家族から体調の様子を聞いて、苑での対応が可能な状態であればなるべく早い退院ができるように助言を行い、病院スタッフからも情報をもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の説明をおこなっている。状態を見ながら特養への申し込みもしてもらい、重度化や医療面での対応が必要となった場合に本人や家族が不安にならないように支援している。体調変化毎に再度説明を行い、家族の意向を都度聞くようしている。	契約時、重度化した時の説明をしている。看取り時、医師や看護師と連携体制を整えていて、関係者が一体となり支援をしている。家族にはコロナ禍ではあるが居室で面会ができ、ゆったりと穏やかに最期を迎えられるよう事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	状態観察の視点、応急処置などについて勉強会(心肺蘇生法講習)や日頃のミーティングで話し合い、統一した対応ができるようにしている。急変時・緊急時には夜間であっても看護師・管理者に連絡を取れるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年5回利用者と共に火災は年3回、土砂災害は年1回、防犯は1回で避難訓練を実施。消防署の協力を得て避難訓練及び消火器の使い方等訓練を行っている。近隣の方々へ参加依頼し救援方法などの確認も訓練に取り入れている。	年3回、うち1回は夜間想定避難訓練をしている。土砂災害訓練時には実際公用車を利用して神寿苑まで移動している。夜間想定訓練時には消防署の協力を得て避難訓練経路確認、消火器の使い方訓練など、利用者と一緒に行っている。非常時の備蓄を(水・食料品等)整備している。	

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々のプライバシーに関する事柄については皆さんのいる場所では聞いたり、話したりしないように徹底している。日頃の会話・声掛けに対しても尊厳ある対応を心掛けている。着替えやトイレの介助を行う際には、部屋の戸を閉めて人目に触れない事を徹底している。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保の為に、本人の確認は苗字にさん付けで呼ぶなど、声掛けに十分配慮している。得意な事が活かせるよう利用者の出来る事、してきた事に注目して、自分が人の為に役に立っていると意識的に取り組める支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全体に目を配り、声掛けを多くして日頃と違う様子や動作からその人の思いや要望を読み取れるように指導している。本人の伝えきれない気持ちを代弁する事で安心感を持ってもらい、自信へとつながるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	帰宅願望や外出等の希望があれば、臨機応変に当日の職員で相談し、自宅への送迎等を実施している。また夜間の睡眠具合での生活の変化にも昼夜逆転にならない程度に昼寝や仮眠をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪希望時には出来るだけ当日に対応するようにしている。各担当者が衣類整理を一緒に行い、いつも清潔な衣類が身につけられるようにする。入浴時には、一緒に衣類を選び同じものを順番に繰り返して着るのでなく、気分転換につながるような変化を持たせるように支援している。又起床後髭そりや整髪を行なうよう誘導し、身なりを整えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理中の匂い・香などから献立の話しながら食事への意欲が持てるように働きかけ、摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へつなげる。話をしながら楽しく食事ができるようにする。テーブル拭き・食材のカット・盛付・配膳及び下膳・お茶入れ・食器洗いなど各自の能力に合った手伝いが出来るようにしている。	3食手作りの食事を提供している。テーブル拭き、野菜の皮むき、栗の皮むき、巻きずしなど、能力にあった手伝いをしている。おはぎや柏餅など楽しみながら季節を感じるおやつ作りをしている。咀嚼や口腔状態に合わせて、形態変化やゼリー状に変えるなど食べやすい物を提供している。	

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事形態を工夫したり、病気によっては量や食材の検討を行ったり自助具使用や食べ方・姿勢・座位の見直し等によって出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。食事摂取量・水分量のトータルを毎日記入して不足とならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない方に対しては職員が介助を行っている。夕食後には職員が必ず付添い丁寧に磨いた後、ポリデントに浸けておく。口腔内の状態も歯磨き時に点検するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中は定時・食事前後や排泄リズムに合わせたトイレ誘導を行う。日誌にも排泄の状況を記載し検討する。又、排泄の意識を持つように声掛けしている。落ち着いて食事ができるように食前には出来るだけトイレ誘導する。歩行難の方・紙オムツ使用の方であっても排泄の要求時には、トイレに座っての排泄を援助している。	個々の排泄パターンを把握し、定期的な声掛け、誘導によりトイレで座位にて排泄支援をしている。便秘予防に水分摂取量や牛乳、夜間にはペットボトルに水を入れて飲んでもらうなど実践している。紙パンツから布パンツへ自分でパットを変えられるようになるなど自立に繋がる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防と水分補給を兼ねて寝る前と朝一番に牛乳を提供。毎日のラジオ体操でしっかり体を動かすようにしています。天気が良い日には外に出て散歩を楽しんだり、テラスでの運動をしています。毎日の排便確認を行って、2～3日排便ない時には、水分の追加・適度な運動で自然排便を試みて、4～5日で下剤使用し排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴に変更し、ゆったりとした入浴時間を確保している。その日に入りたい方や前日に受診で入れなかった方などは調整し入浴する。介助が必要・目を離せない方の場合は2人で入浴介助をしている。	入浴時、ゆっくりと会話を楽しんでももらえるよう週2回の入浴をしている。時には温泉気分を感じてもらえるよう入浴剤を入れたり、入浴が難しい利用者には順番を変えたり、人を変えるなど配慮工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼食後や入浴後などに横になり たい方には都度対応している。そ の日の体調によっては眠い時に ベッドで横になれるようにして いる。皆さんのいるところの方 が安心できる人もいるため自由 にソファでも眠ってもらってい ます。夜間のトイレは睡眠を重 視し本人が目覚めた時に対応し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の説明書は個人ファイルに閉 じて職員が常時見られる。医師 の指示のもと調整出来る薬は状 態を見ながら調整して服薬して いる。食前後の服薬がある人は 手前に食前、膳の奥側に食後 をセットし、錠剤が飲み込めな い人は、粉にして服薬介助・服 薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々の得意分野での手伝や手 仕事を行なってもらう。体力的 ・精神的に負担とならないよう に支援している。嗜好品として 饅頭や飴など適時提供している 。季節毎の行事や外出行事を計 画して気分転換や楽しみが増え るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	苑外への散歩は出たい時に付 添い出れるようにしている。季 節の花が咲いた時には出来るだ け見に行きます。近隣のイベン トにも参加します。散髪や買い 物にも希望時に行ける様に支 援している。	風を感じてもらったり、季節 の花の見学などの散歩も玄関先 の階段を利用する事で筋力低下 の予防になっている。屋外に机 や椅子を並べてのレクリエー ションやランチタイムなど身近 な所で外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	トラブルがない様に高額な現 金は事務所の金庫で預かります 。2千円程度はご自身で管理し ている入居者もいます。買い物 時には支払いもできる様に援 助している。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族への電話は希望時に対応しています。家族や子供さんからの手紙や荷物・プレゼントが届いた時には、本人からお礼の電話をしている。家族に暑中見舞いや年賀状を1人1枚づつだせる様に支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に所定の位置に物がある様にして、戸惑うことのない様に配慮している。壁には季節ごとの飾り物をして、廊下や居室は明るい状態にしている。室温も一定に保つようにし、個々の体温に応じた衣類の調整が出来る様に支援している。	季節ごとの貼り絵が飾り付けられている。机や椅子の配置、立ち上がりやすいように工夫された温かみのあるソファ席、空調調節、感染症予防対策など配慮され、時にはソファ席で横になり寛がれるなど意心地よく過ごしやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はリビングのソファでくつろいだ状態でテレビを見たりレクに参加する。横になりたい時にはソファで横になったり、新聞等はテーブルで読んでもらう。1人掛けから3人掛けまでのソファを準備している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れたものは持参してもらい、自宅の様な環境を整える。部屋の片づけは職員もするが、入居者様と一緒に片づけたり、整理をして安心感を持ってもらえる様に支援している。	ベット、布団、エアコン、床暖房など備え付けである。自宅で使い慣れた物、大切にしている物、パッチワークや写真など思い思いの工夫が見られる。居室にはトイレ、洗面台、押入れが設置され、夜間排泄時にはセンサーマット、手すりが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室や苑内は自由に行動してもらっている。洗濯物・タオルたたみ、野菜の皮むき、食器洗い、簡単な調理、掃除・配膳など個々にあった出来る事をしてもらっている。両ユニットの移動も自由に出来、話したい人がいれば移動できるようにしている。		

V アウトカム項目(西ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に振り返りが出来るよう、理念を目的のつく所に貼り出し、時に皆で復唱している。利用者主体の生活を送っていただけるよう、情報を共有しケアプランにそってサービス提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症予防のため利用者さんと地域とのつきあいは激減している。理美容院には来苑してもらって髪をカットしているが、数少ない外部の方との交流の場でもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトの資格を持つ職員が地域において、認知症サポーター養成講座をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で苑での日常を報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。行事や日常の様子について写真を示しお知らせし意見や感想を聞いて次の行事に反映できる様にしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町・地域包括センター等の指導、助言を得てサービスの向上に努めている。認定更新時の聞き取り時には、ご本人やご家族の要望や困っている事などを伝えて情報を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年3回は身体拘束廃止研修会を実施し「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解の徹底を図っている。身体拘束をしない対応の仕方を都度話し合い適切な支援について検討し、安全面に配慮しながら散歩に付き添い、鍵を掛けることなく自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し、虐待とは何か等、法を学ぶ時間を設けている。町から勧められる研修への参加と、参加後の研修報告を行ない意見交換を行なう。管理者は職員の様子に注意を払い、必要なメンタルケア支援を行なう。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等への参加・書物での勉強等で学ぶ機会を多く持てるようにして職員個々が概要を理解できるようにしている。個々で必要となった場合には関係者との話し合いを持つようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	苑でのケアの取り組みや考え方を説明して、ご本人やご家族の意見要望を聞いて納得していただけるまで時間をかけて話を聞いている。解約事項についても細かく説明を行い、不安をなくすように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方々との日々の会話の中から要望や心情を察しサービス提供し、ご家族に日頃の状況を報告して意見をもらったり、ご家族からの要望も聞いて、職員間で話し合い改善できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のみでの判断で済まされる事項については、会議やミーティング・日々のケアの中で意見や提案を聞き、話し合いをした上で決定して実践するようにしている。経費が必要な事項や大幅な改善が必要な場合は、代表者に報告・相談して決裁をもらう。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。また休憩時間の確保、時間外手当の支給をする。介護職員処遇改善加算支給について適切に支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じた外部研修を受講できるように計画を立てている。新人職員には管理者、リーダーが介護の方法、精神的ケア等指導して現場で常に助言・援助を行っている。成功体験や達成感がもてるよう評価していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	郡のケアマネ協議会やその他の会議等で他の施設の管理者・ケアマネ等と情報交換を行い、新しい着眼点を見出しサービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談時には、リラックスできる雰囲気づくりに努め、ご本人の本音が引き出せるよう、礼儀正しく、誠意をもって面談している。		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の話したい事や困っている事をよく聴いて受容し、これからの生活について相談していく。苑で出来る事を具体的に提示して両者で確認しておく。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>早期対応が必要な場合には担当ケアマネとの連携を取り、利用可能なサービスへつなげられるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>自分の存在価値を認められるよう、出来る事を引き出し日々の生活において出番をつくる。又人生の先輩として色々な場面で教えや助言を乞う。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃より生活の様子、体調について細かく伝えることにより本人とご家族との会話のきっかけ作りに努めている。感染症対応により、ガラス越し面会しか出来ていないが間に入り会話が弾むよう働きかけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>感染症対応により、制限が多いが理美容院の来苑時には会話が弾むよう付き添い調整している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がそれぞれの個性を把握して個性を生かす働きかけを行い、輪が保てるように調整を行っている。みんなで楽しく話したり、利用者同士の会話が広がる様に職員も一緒に入って雑談や話を聞いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた方に対してご家族にその後の様子などを聞くようにしている。施設との連携も取り、今までの生活の流れに沿った介護を受けられるように引き継ぎを行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で要望に対応したり、個々の生活パターンを把握して時間や体調によってトイレやベッド介助等を行っている。その日の気分や体調によっても臨機応変に対応出来るようにしている。（例：気分転換のドライブや散歩）		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族やケアマネからの情報収集を行い、職員への周知徹底により現在の状況だけにとらわれず、築いてきた事や頑張り进行评估し尊厳をもって支援が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体の調子や表情を観察して、その日の過ごし方や食事形態を検討し、実行するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のもつ能力をしっかりと見て、常にご家族や職員で話し合い介護計画に反映している。まず、参加することに意義を持たせ、本人の持っている力が発揮できる喜びを共有して、意欲へとつながる様に支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の実践・様子、食事、排泄、水分量、バイタル、家族の来訪状況などを個別記録に記入して、職員それぞれが常に目を通し介護計画に沿っているかを検討している。又見直しが必要であれば介護計画の修正を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	天気を見て花見やドライブに出かけ、コロナ過の中での気分転換に取り組んでいる。受診介助し医療機関との連携を図り体調異変時の受診など早期対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地元議員や自治振興会の班長さんらとの自主防災についての取り組みを行い。安全に生活できるようにしている。(土嚢確保・川掃除)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれのかかりつけ医に継続して受診出来る様に支援している。感染予防の為、当苑の診療時間を外部の方と接触しないよう配慮してもらえる診療所があり安心して診療を受けている。又、体調異変時には速やかに入院設備のある近隣の病院へ紹介され、適切に医療を受けられるようにされている。		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック・体調観察を記録して変化ある時には、報告して助言・対応を受けている。体調悪化早期発見につながる変化の気づきなどのアドバイスを常時受けて実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診するかかりつけ医と緊急時に受診する病院を家族と話し合い決めて対応している。入院時にはアセスメントシートで病院に情報提供を行っている。入院時には家族から体調の様子を聞いて、苑での対応が可能な状態であればなるべく早い退院ができるように、病院スタッフからも情報をもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の説明をおこなっている。状態を見ながら併設の特養への申し込みを提案、重度化や医療面での対応が必要となった場合に本人や家族が不安とならないように支援している。体調変化毎に再度説明を行い、家族の意向を都度聞くようしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	状態観察の視点、応急処置などについて勉強会や日頃のミーティングで話し合い、統一できるようにしている。急変時・緊急時には夜間であっても看護師や管理者に連絡を取れるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年5回利用者と共に避難訓練を行っている。2回は消防署の協力を得て避難訓練・避難経路・消火器の使い方訓練を行っている。近隣の方々にも協力が得られるよう訓練への参加依頼をしていた(現在コロナ過で中止)。川掃除に参加し地域の方との馴染みの関係づくりwしている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々のプライバシーに関する事柄については皆さんのいる場所では聞いたり、話したりしないように徹底している。日頃の会話・声掛けに対しても尊厳ある対応を心掛けている。着替えやトイレの介助を行う際には、部屋の戸を閉めて人目に触れない事を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全体に目を配り、声掛けを多くして日頃と違う様子や動作からその人の思いや要望を読み取れるようにしている。本人の伝えきれない気持ちを代弁する事で安心感を持ってもらい、自信へとつながるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	気分によって1日に何度も散歩に出掛ける方や買物に出掛けたい方への付き添いを行っている。「家に帰らんといいけん。」と混乱気味に言われる方に対しては、自宅までドライブしたり、一緒に散歩し気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪したいとの声がある時には対応するようにしている。各担当者が衣類整理を一緒に行い、いつも清潔な衣類が身につけられるようにする。入浴時には、一緒に衣類を選び、気分転換につながるような変化を楽しめるように支援している。又起床後髭そりや整髪を行なうよう誘導し、身なりを整えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備のにおい・香などから今日の献立の話しながら食事への意欲が持てるように働きかけている。摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へとつなげる。話をしながら楽しく食事ができるようにする。テーブル拭き・配膳・お茶入れ・食器洗いなどそれぞれに合った手伝いが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事形態を工夫したり、病気によって禁止食材の代替えを行ったり自助具使用によって出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。食事摂取量・水分量のトータルを毎日記入して過不足とならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない方に対しては職員が介助を行っている。夕食後には職員が必ず付添い丁寧に磨いた後、義歯洗浄剤に浸けておく。口腔内の状態も歯磨き時に点検するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレへの声掛けを定時・食事前に行っている。落ち着いて食事できるように食前にはできるだけトイレに行ってもらおう。夜間は巡回時に個々の排泄パターンに合わせた声掛けを行ないトイレ介助を行う。紙オムツ使用の方であっても排泄の要求ある時にはトイレ介助する。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防と水分補給を兼ねて寝る前と朝一番に牛乳を提供している。毎日のラジオ体操でしっかり体を動かすようにし、外に出て散歩を楽しんだり、寒い時には廊下を皆で一斉に歩いて運動をしている。毎日の排便確認を行って、2～3日排便ない時には、下剤使用で排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回入浴できるように計画している。その日に入りたい方や前日に受診で入れなかった方などは、調整して週2回の入浴を確保している。介助が必要な方や目を離せない方は、2人で入浴介助をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼食後や入浴後などに横になり たい方には休んでいただき、その 日の体調や眠い時にベッドで横 になれるようにしている。皆さ んのいるところの方が安心でき る人もいるため自由にソファで も休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の説明書は個人ファイルに閉 じて職員がいつでも見られるよ うにしている。医師の指示のも と下剤など調整出来る薬は状態 を見ながら調整して服薬してい る。服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々の得意分野での手伝いや 手仕事を任せて行ってもらって いる。責任感から体力的・精神 的な負担とならないように支 援している。嗜好品としてお菓 子など間食の持ち込みがある方 には、適時提供している。季節 毎の行事や外出事を計画して 気分転換や楽しみが増えるよ うにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ うに支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	苑外への散歩は出たい時に 出られるようにしており、必ず 付添いをしている。又希望があ る場合、ドライブにも出かけて いる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	トラブルのないよう多額の現金 は持ってもらわないようお願い をしているが、自分で管理出来 る方には1万円以下の現金を持 ってもらい、買物時には自分で 払ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	予めご家族に状況説明をして思う時に電話で話をしてもらっている。家族や子供さんからの手紙や荷物など届いた時には本人がお礼の電話が出来るように対応している。家族などに暑中見舞いや年賀状を一人1枚ずつ出せるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常にいつもの場所にいつもの物があるようにして、戸惑うことのないように配慮し、季節毎の飾り物やレクで季節の歌を唄ったりして季節が認識できる工夫をしている。適切な温湿度になるよう空調調節を行い、衣類の調節の声掛けや支援をしながら、快適に過ごせる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はリビングのソファでくつろぎながらテレビを見たり、レクをしたりがほとんどで、ソファで横になりたい方には横になって休めるように配慮している。昼食後はベッドで横になりたい方や気分によっては眠りたい方には自室で休めるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物を持ちこんでもらい、安らぎの居住空間となるよう配慮し、部屋の片づけも職員が勝手にしてしまうのではなく、一緒になって片付ける事で安心感を持ってもらえるように支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室や共有スペースでの行動は自由に行ってもらっている。洗濯物干し・たたみ・食器洗い・掃除・配膳など個々に合った出来る事してもらっている。各ユニットへの出入りも自由にしてあるので、思うよう行動出来、話をしたい人の所へ行ってもらっている。		

V アウトカム項目(東ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所ひまわり苑

作成日 令和4年7月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	利用者・ご本人及びご家族の本事業所に対する要望や意見（本音）を充分把握できているか不安。	利用者はもちろん、ご家族との信頼関係を深くし、遠慮なく意見を言える関係性の構築。	利用者様にはケア時等での言動・生活歴から思いを把握し、ご家族様には普段の状況説明や交流時に思いを聞き取り、会議等でケア検討する。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。